

Daichikyo News

大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第11号

発行元: NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会
企画委員会 《広報宣伝部》
発行日: 2021年6月 第11号
担当窓口: 望之門保育園 佐伯 剛
Tel 6651-7741
Fax 6652-8841



大地協の最新☆情報は右記→

QRコードをご覧ください。

大地協ニュースへのご感想・記事へのリクエストなど
ございましたら上記担当者までぜひご連絡ください。

土をつくり今を楽しむ子どもたち！！

2年目を迎えるコロナ生活をむかえ、園の中でも手洗い・消毒・換気と日々が大きく変化しています。人との接触を制限される中で、保護者や地域を巻き込んでの行事を限定、中止する日々が続きます。子どもたちの生活は変わらないものの、登園できない子どもたちがいることに心が痛みます。

一方、大きく変化したとすると、行事等にとらわれず子どもたちも職員も、日々の生活をていねいに大切に気付きのなかで過ごせるようになっていることです。保育では当たり前のことですが「レモンの木に(産み付けた卵が)幼虫あるよ！」とあおむしがさなぎになり脱皮して羽化してきれいなアゲハになって飛んでいく様を喜んでいる。樹木につく虫を見分けて幼虫分析。夏野菜のタネを蒔いて、育つ姿を観察する。給食の野菜くずや残したものが、乾燥機の中で“ぷーん”とにおいがして、堆肥として土に返していくことを毎日飽きずに楽しんでいる。重い土を運んだり混ぜ込んだり、目がキラキラしている姿がうれしい。先生たちも負けずに勉強する日々のなかで、季節の変化が行事の取り組みでなく、日々の生活の中で知っていける姿を感じます。自然の中で暮らせる子どもたちにとって、当たり前の生活かもしれませんが、町なかで過ごす子どもたちは、どこかへ出かけることや目新しいものに目を奪われがち、じっくり過ごすことでの発見を楽しみたいと思います。保護者にも日々の園生活を配信して理解していただいたり、地域の方々とふれ合いができない中で、子どもたちの姿をビデオレターにして届けたりしています。又地域の家庭におもちゃや絵本の宅配をして届ける等、大切なつながりを工夫しても



っていけたらと活動をしています。

コロナによる生活の変化は失ったものだけでなく、当たり前の保育の在り方を再度みなおすことができるチャンスでありたいと思います。前回の大地協の全国大会は配信になりましたが、阿部先生の講演を職員全員で拝聴することができました。今までならなかなか全体で共有できないことも、コロナ禍ならではのようです。生で聴きたいところでしたが、今は著書を読んで、わからないことをわかりやすく奥の深さに… 脱帽するしかないのですが。

達子先生の温かい眼差しと実行力に心打たれて

一期一会 先人たちの言葉



今川学園創設者：三木達子先生が、昭和46年にNHKの朝のラジオ番組『人生読本』でお話されたのを改めて聞き直しました。学童保育が始まった経緯、さまざまな体験の中で、不条理だと感じられ、一番弱い立場の子どもが犠牲になることに憤りを感じて、どうにかしたい！という達子先生の強い思い、実践力に敬服するとともに共鳴したことをお伝えしたいと思います。

『経済成長の素晴らしい発展の影に、婦人の労働力、そのための犠牲者である子どもたちが問題と取り上げられるのは当然のこと。ポストの数ほど保育所を作るという運動…小学生になると急に一人前になったという錯覚をおこして、勝手に鍵を開けて留守番させる。働くことがまずは優先。…3月末まで幼児として保育所で預かっていた子が、4月1日になると一年生になり急に大きくなった気がして…私が全国に先駆けてこの学童保育問題に取組み、二十数年も前に既にささやかながら、この福祉対策に手をつけたのは母の労働力が要望され、不在家庭児童が増大する難しい世の中になるだろうと予測したわけではなく、母親が戦災でなくなった父子家庭の一年生が学校

から帰って誰もいない寂しさに耐えきれず隣近所をウロウロ歩いているうちにとある家のお金を目ざとく見つけ、でき心で持ち出した。それが警察沙汰になり民生委員の私に保護監督して欲しいと依頼され、お世話をした経験。その時、この子に罪があるのかとしみじみ考えさせられた。鍵っ子といわれる子たちをせめて温かく「おかえりなさい」と迎えたい！ - 『人生読本』部分抜粋 - これが今川学園で学童保育が始まったきっかけ。目の前の困っている人に手を差しのべる。何とか手助けしたい！という達子先生の熱い思いに共感した職員さんたちと一緒にできることから始められた。そして、制度の有無に関わらずに真っすぐに行動され、解決の糸口を一生懸命探される行動力に脱帽です。時代は変わっても、達子先生の福祉に対する熱い思いを次の世代に伝え継承していきたいと思っています。

今川学園 篠瀬 実千代



阿倍野筋5丁目より愛をさけぶ

病後児保育室ののたんルーム



病後児保育室ののたんルーム

保育士さんへのQ&A

Q. 病後児保育で大切にしているところはどこですか？

A. 「子どもたちの精神的な負担が少しでも軽減し安心して過ごせるよう温かく家庭的な雰囲気大切にしています」

Q. 病後児保育で気を付けているところはどこですか？

A. 「看護的な視点も求められ、子どもの情報や状態から見極めて判断していく必要があるところです」

Q. 病後児保育を担当して嬉しかったことはどんな時ですか？

A. 「園内にだけに限らず地域のたくさん子どもたちや保護者の方との出会いがあることです」

Q. 病後児保育の今後の夢と展望を教えてください。

A. 「より多くの地域の方に利用していただき安定した事業となっていくことを目指していきたいです」

望之門保育園・病後児保育室ののたんルーム

保育士 伊藤 知夏

育児休業から復帰し当時病院勤めだった私自身も、勤務中に保育園からのお迎え依頼の電話にびくびくしていた経験がありました。ひとたび熱がでると、今日のお迎えだけではなく、明日いや何日続くのだろうかと勤務調整をしなくてはなりません。職場にも謝り、お迎えに行ったら保育士さんに、遅くなってしまった事を謝って、子どもにもつらい思いをさせてごめんねと謝って…。毎日誰かに謝っていた頃を思い出します。もっと、子育ても仕事も楽しめる自分であれたら…。「病気の時くらい、保護者が子どもを見るべきだ」という念は、社会にもそして子を育てる保護者自身にも、今でも深く根付いています。その割に、子どもが病気になったら仕事を休むのが当たり前というスタンスになっていない為、子育ての困難さは解消されないままです。

コロナ禍。認可保育園には「いったん37.5℃熱が出たら、解熱してから24時間様子観察をしないと登園できない」ルールが大阪市の通達で設定されています。育児と仕事の両立は困難さがさらに増しました。のたんルームは、保育士・看護師が常駐している病後児保育室で、大阪市の委託事業です。0歳6か月～小学6年生までのお子さんを病気の回復期にお預かりしています。ゆったりとした家庭的な空間で、子どもが休息したい時はごろごろしたり、好きな遊びを見つけて遊んだり、保育士の絵本を読む声に耳を澄ましたり、お家のように子ども自身が自分のペースで過ごし方を選択できる様に心掛けています。「よかった。明日から元気に保育園に行けるね」お迎えに来られる保護者の方は、子どもの笑顔に肩をなでおろします。

子育てと仕事に困難さを感じながらも、楽しさや喜びにフォーカス出来るよう、伴走者としての『のたんルーム』であれるように努力していきたいと思っています。

望之門保育園・病後児保育室ののたんルーム

看護師 楠 洋子



美味しい記憶は一生の宝物

子どもたちとの思い出 キャンプ料理



セツルの家に到着し、食材の搬入を終えると、私は真っ先に（子どもよりも先に）びわ湖の浜へ向かいます。波の音、太陽の日差しと空の色、浜風の香り、砂を踏みしめる感触…。浜に立っただけで心が和みます。全身で自然を感じることができるこの場所で、子どもたちは各々さまざまな方法を見つけ、思う存分遊びます。水遊び、魚とり、虫探し…。子どもだけでなく大人も一緒に楽しめることがセツルキャンプの良さだと思います。

キャンプの楽しみの一つに『料理』があります。セツルの家は、屋内で料理をすることも可能ですが、多人数でも楽しめる野外（浜）での料理がお勧めです。育徳園の学童のキャンプでは、食材の下準備から片付けまでの工程を子ども、指導員、OBが協力して行います。グループに分かれ、浜に穴を掘ってかまどを作り、焼き網や鉄板の上で魚の丸焼き、焼きそばなどを作ります。薪を使った火おこしが上手いかず、料理がなかなか完成しなかったり、時には突然の大雨から料理を守るために、協力してブルーシートを広げ、簡易のタープを作ったりしたこともありました。野外料理は楽しいだけではなく、自然と向き合い、仲間と困難を乗り越える術を共に学ぶこともできます。

「みんなで作って食べる料理はおいしい！」この体験こそがキャンプ料理の最高の思い出になるはずです。

自然・遊び・食が合うことで、キャンプ料理の思い出の味は完成します。『五感』がフルに刺激されるびわ湖セツルの家での自然体験が、子どもたちに記憶として刻まれるよう、微力ながらこれからも応援していきます。

育徳園保育所 主任調理師 松下 稔



○ ご紹介書籍 ○

『人新世の「資本論」』 斎藤幸平著から読み解くもの

資本主義の行き着くところ、地球温暖化等を招き、このままでは地球はもたない（人新世）。SDGs などでは解決しないと著者は断言する。ではどうするか、カール・マルクスの「資本論」以後の手稿等を分析する中でコモンという考え方に到達する。我々の働き方を「価値」から「使用価値」に転換する中で労働の創造性を回復させ（保育士や教師も同じ）—そこではルドルフ・シュタイナーの言う自由がベーシックなところでは必要—（松野挿入）。そしてシステムとしては資本主義から共同体主義への転換を目指す。稀有な労作である。

読むうちにおもしろくなり2日で読み終えた。学生時代、立命館に通う京阪電車の往復90分で文庫本又は新書本を一冊読むことを己に課した。おかげで独自の速読法を身につけたことも今に役立っている。

大きな疑問や課題は一生持ち続けることが大切だ。若き日「資本論」にトライした。疑問は解けなかったが今回やっと光明が見えた。「読書百遍意自ずから通ず」と諺にあるように難しい本は3回読まれることをお勧めします。ただ、初回は途中で投げ出すのではなく、分からなくても最後まで読み通すことです。ところで3回読んでも解らぬ本があった。僧 道元の「本覚思想」特に「時間論」であった。ところが、ところが何十年経ったある時「道元とシュタイナー」（塚田幸三 著）という本が出版された。飛びつくようにして読んだ。ルドルフ・シュタイナーと道元がこんなところで結びつくのかとやっと胸に落ちた瞬間であった。

福祉系書籍紹介 ブビリオバトル



社会福祉法人しんもり福祉会 松野 五郎

DAICHIKYO TOPIC

爽やかな季節と共に、新年度を迎えて保育園にも新しく一緒に働く仲間がやって来ました。今年度は、久しぶりの男性保育士1名を含む4名が入职しました。やる気と熱意と、そして不安と緊張が見え隠れする表情を見せながらも日々の保育に頑張ってくれています。この4人の若者たちに、園長の私から質問を投げかけてみました。『なぜこの仕事を選んだのですか?』『入职してからこの2か月間どうでしたか?』『これからどんな保育士になりたいと思いますか?』4人それぞれの思い溢れることばが返ってきました。

みんな子どもに関わる仕事をしなくて保育士になり、このコロナ禍の中頑張ってくれています。就職してからは、慣れない仕事や覚えなくてはならない事がたくさんあって、大変!という思いが先行しているのが現実のようですが、そんな中でも子どもたちから学んだり、成長と一緒に喜んだりすることのできた2か月だったようです。

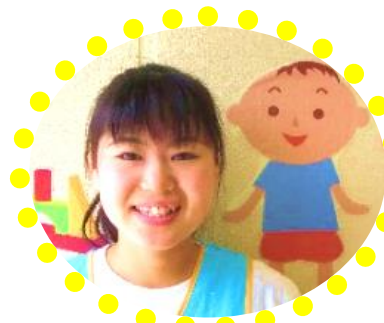
その中で印象的だったのは、ひとりひとりの言い方に違いはありましたが、どの職員も「子どもの思いや気持ちに寄り添っていくことのできる保育士になりたい」と答えていたことです。ぜひその思いを大切にしていって欲しいと思います。その時子どもにとって、何が必要なのか?そしてそれを受けて自分は保育士としてどうしたいのか?どうすべきなのか?ということを考える機会がたくさんあればあるほど、それは自分自身にとっての糧となると、私は思います。仕事で苦境に立たされた時、その糧がきっと自分を救ってくれるはずですよ。たくさんたくさん考えてください。たくさん悩んでください。その経験が未来の自分を作ってくれるはずですよ。その後にはきっと、保育士としての大きな喜びもやってくるはずですよ。

社会福祉法人 育和白鷺学園
岡田 百代



☆ 新たな仲間との出会いを迎えて ☆

今年都島友の会に18名の職員が仲間入りしました。幼保連携型認定こども園 都島児童センターには2名の新人職員が配属されドキドキ・わくわくしながらの4月がスタート!!そんな初々しい職員に聞いてみましたあ〜!!



Q. なぜこの仕事を目指したのかな?

A. 『私は都島児童センターで育ち、行事が楽しかった。今振り返ると先生たちの声がけでいろんなことに頑張れたと思うので、そんな風に思ってもらえる先生になりたいと思って』

Q. 休日はどんなことをして過ごしているのかな?

A. 『本当はカラオケや買い物に行きたいですが今は、快適なリビングを目指し掃除をして気分転換をしています』



Q. なぜこの仕事を目指したのかな?

A. 『実習を通してさらに子どもたちのことが大好きに!突然のハプニングも楽しく展開していく先生の姿に憧れました』

Q. 休日はどんなことをして過ごしているのかな?

A. 『一人暮らしを初めて自炊をするようになって一週間分の献立を考えて料理をしています!唐揚げが得意です!』

Q. 仕事を始めてどうですか?

A. 『なかなか子どもたちに自分の声が伝わらない…。主担の先生なら聞いているのになあどう言ったらいいのかな悩みます…』



「仕事に関しては新人職員あるあるの悩みでした。私が新人の頃の失敗談や感動した子どもたちとのエピソードを話していくうちに一人熱く語っていました(笑)」

「とにかく子どもたちと一緒に遊び、子どもたちいろいろな経験し『子どもも大人も楽しんで!』と伝え、これからの二人の成長を期待し見守っていききたいと思います」

また都島友の会は今年3月に90周年を迎えました。創設者 比嘉 正子 はここに来たら安心して過ごせる場所として地域の子どもたちを見守ってきました。私も「いつでも帰ってこれる場所はある」「いつでもここに来たら話せる・笑える場所」と卒園児を送り出し、保護者の方にも伝えています。職員もこれからの出会いを楽しみにしながら頑張りたいと思います。

社会福祉法人 都島友の会
幼保連携型認定こども園 都島児童センター
副園長 守屋 美智子